

年月日

19  
11  
29ペー  
ジ

29

NO.

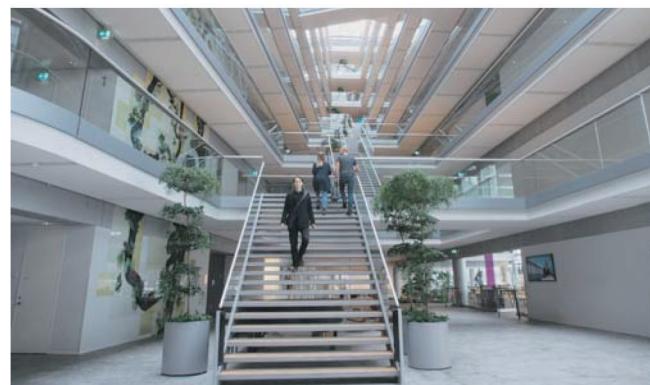
今年の世界幸福度ランキン  
グは1位フィンラン  
ド、2位デンマーク、3  
位ノルウェーと北欧諸國  
が並ぶ。OECDの労働  
生産性でも上位に位置す  
る。日本の58位とは大き  
な差だ。その差は何か。  
まず労働時間が短い。

週の労働時間はフィンラ  
ンドでは約40時間、労働  
組合の強いデンマークは  
約37時間、実際はさらに  
短いとも言われる。また  
人材の流動性が高く転職  
は一般的だが、失業手当

が手厚い。税金が高い一  
方で医療費、出産費、大  
学院までの学費補助も厚  
く、金銭的な心配をせず  
に自分が学びたいこと、  
働きたいことに向き合え  
る。一般的にワーカーの  
裁量は大きく、組織もフ  
ラットだ。仕事に対する  
対価は労働時間ではなく  
成果やアイデアが重要視  
され、能動的に働く姿勢  
が見られる。効率的に短  
時間で成果を出す働き方  
を個々が考える。その結  
果プライベートも充実

## △デザインのチカラ△

(18)



透明性と知識の共有を意識したデンマークの大手建設コンサルティング会社RAMBOLのオフィス

# 幸福度1位 北欧圏の働き方

し、さらに創造性や知識、意欲の向上につながる。デンマークには「Hygge（ヒュッゲ）」という言葉がある。日本語で近い表現は見当たらぬが、「リラックスした日常や自然に触れる時間を意識して創り、そこに幸せを見いだすという生活の知恵のようなもの」だ。長く厳しい冬を過ご

す北欧では、自然の中で芽生える息吹や暖かな日差し、人の優しさや気の置けない人と過ごす時間を大切にしている。プライベートを大切にする文

化がしっかりと根付き、ワークライフバランスがとれた高い幸福度につながっているのではないかと思う。

オフィスのデザインもクリエーティブだ。中央にある吹き抜けを熱務ス

ペースが囲み、中心部の内部階段によって空間が接続されている。ウエル

ビーニング（身体的、精神的、社会的健全な状態）に対する企業の意識も高い。自然光が入る大きな窓の近くに昇降式のデスクが配置され、集中

できるようになっている。（大川貴史・三井デザイ

ンテック・企画・マーケティング室長）